

老年看護方法論

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 野里 同 准教授		
担当講座・学科(分野)	地域包括ケア講座		
対象学年	2	区分・時間数	講義 22.5 時間
期 間	後期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

高齢者の健康障害は、生活習慣を反映した個別性があることを学ぶ。また、健康障害の要因をアセスメントし、高齢者の QOL の向上に向けた看護を学ぶ。さらには、根拠をもち看護実践ができることを重視する。高齢者のヒストリー聴取の技術、高齢者のバイタルサイン測定の特徴、尿失禁のある患者の看護、脳血管障害のある患者の看護（麻痺・嚥下障害のある人の看護）および認知症のある人の看護を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

高齢者の特徴的な身体症状や健康障害に対して、生活行動モデルを用いてアセスメントをすることで生活機能に視点を当てた目標志向型の看護過程の展開を身につけることができる。高齢者は認知症の罹患率が多く、また、ライフステージの最終にあることを理解することで、高齢者の人権の尊厳や倫理的課題、自己決定の支援など高齢者・家族のニーズに応じたケアの必要性を実感できる。さらに、高齢者の生活する場が多様であることを理解することで、多職種との連携の必要性やその人らしく生きるための支援のあり方を考察できる。高齢者のもてる力を引き出す援助の方法を考察することで、高齢者の尊厳と QOL を支える看護のあり方を認識できる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 7, 8

・到達目標（SBO）

1. 高齢者に多い疾患や症状を学び、ニーズに応じた支援の方法を述べることができる。
2. 高齢者の生活行動モデルに沿ってアセスメントし、目標志向型の看護過程のポイントを述べることができる。
3. 高齢者の強みを引き出し、健康の維持、自立促進の看護の方法を述べることができる。
4. セルフケアによるその人らしい生活を実現できる支援の方法と必要な社会資源を説明できる。
5. その人らしく生きるための尊厳と多職種との連携や QOL を支える看護について考察できる。
6. 認知症高齢者の特性や看護について説明できる。
7. 人生の最終段階にある人の意思決定プロセスの特徴と支援する方法を説明できる。

・授業日程

(矢) 西 1-B 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
9/13	月	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>多様性を尊重する老年看護の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で生活している高齢者の様子・治療を必要とする高齢者など「メディカ AR」アプリを用いて様々な高齢者がいることを理解し、高齢者の多様性、価値観の違いを尊重する必要性を述べることができる
9/13	月	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>高齢者のヒストリー聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感覚器障害のある高齢者のヒストリー聴取においてコミュニケーションの方法を工夫することができる ・ 高齢者を尊重する態度を身につけることができる
9/15	水	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の習慣、こだわり、価値観を理解し援助の必要性を説明できる ・ セルフケアが困難な高齢者には、もてる力を引き出し安全で心地よく清潔のニーズを充足できるよう支援の方法を述べるができる
9/15	水	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>排泄障害のある高齢者への看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の便秘・失禁の要因をアセスメントし、個々に応じた援助方法を述べるができる ・ 便失禁・尿失禁のある高齢者のケアについて自尊心を傷つけないケアとはどのようなケアか、グループワークによって理解を深めることができる

9/17	金	2	地域包括ケア講座	館向 真紀 特任講師	<p>口から食べることを支える看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 摂食嚥下機能障害のメカニズムと合併症について説明できる ・ 口から食べ続けるために必要な包括的知識と看護の方法を述べることができる ・ 摂食嚥下障害のある高齢者・拘縮のある高齢者のポジショニングの必要性を述べるができる ・ 生活機能障害のアセスメントができ、もてる力を引き出す看護を説明できる
9/22	水	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>手術を受ける高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手術を受ける患者の心理が理解できる ・ 環境の変化による高齢者への影響とその要因を理解できる ・ 術前の観察・看護のポイントが理解できる
9/27	月	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>リハビリテーションを受ける高齢者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 術前・術後の観察ポイントと看護のポイントが説明できる ・ 術後せん妄の発生要因と発生予防について説明できる ・ 多職種とのチームアプローチの必要性がグループワークをとおして考えを深めることができる
9/29	水	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>高齢者の楽しみ・生きがいづくりのケアの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レクリエーションの必要性を述べるができる ・ 高齢者の楽しみ・生きがいとなるレクリエーションを計画・実施できる
10/4	月	3	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>認知症のある人の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の中核症状と BPSD の関連性を述べるができる ・ 動画により認知症の人の生活を理解し、ケアのあり方を説明できる

10/4	月	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>認知症のある人の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の人が地域で生活するための支援の実際を理解できる ・ 住み慣れた地域で生活するための地域での取り組みや問題を考えることができる
10/6	水	3	地域包括ケア講座	舘向 真紀 特任講師	<p>最後までその人らしく生きるためのケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 動画を見て最後までその人らしく生きることの意義を理解し、GWにより、その人らしく生きることを支える看護のあり方を深めることができる
10/6	水	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>目標志向型の看護過程の考え方と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活行動モデルを用いてアセスメントができる ・ 病態・生活機能関連図を記述できる
10/8	木	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>目標志向型の看護過程の考え方と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標志向型の「看護の焦点」と看護目標を抽出できる ・ 事例を基に看護計画が立案できる
10/12	火	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	<p>慢性閉塞性肺疾患（COPD）のある患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「メディカ AR」アプリを用いてCOPDの患者の病態生理をイメージできる ・ COPDのある高齢者の観察のポイントを述べることができる ・ COPDのある患者の苦痛の軽減とその人らしく生活するための看護のポイントを述べるができる

10/14	木	4	地域包括ケア講座	野里 同 准教授	薬物療法を行っている心不全のある高齢者の看護過程の展開 ・動画を見て心不全のある人のアセスメントし、看護のポイントを列挙できる
-------	---	---	----------	----------	--

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ 老年看護学(2)高齢者看護の 実践 第5版	堀内ふき他	メディカ出版	2021
推	看護に活かすカウンセリングI コミュニケーションスキル・対象の生 き方を尊重した健康支援のため のアプローチ	伊藤まゆみ	ナカニシヤ出版	2014
推	死を前にした人にあなたは何 ができますか？	小澤竹俊	医学書院	2017

・成績評価方法

定期試験で行われる筆記試験 100%とし到達度を判定する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）をいた上で授業に臨むこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。グループワーク等のアクティブラーニングを取り入れ、伝える能力の強化を図ると同時に、事例を用いて問題解決能力とコミュニケーション能力を身につける。また、インターネットクリッカー（SLIDO）等を利用したクイズやディスカッションを行うため、指示があった場合はインターネットに接続できるように準備をしておくこと。

授業終了後は、ノートと教科書・配布資料等を用いて積極的に自己学修を行い、知識と理解の定着に努めること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

- ・授業で行う確認問題は、その都度、回答・解説する（数回実施する）。
- ・提出されたレポート等の課題は、適宜コメントを付して返却する。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表3）：専門分野Ⅱ 老年看護学

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義用資料投影